

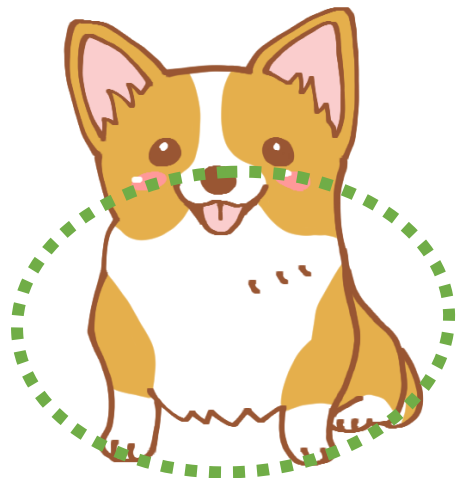
変性性脊髄症 DM

変性性脊髄症(DM)とは

最初に四肢が動かなくなり、最終的には呼吸麻痺で死亡する神経疾患の一つです。原因としてはスーパーオキシドジムスターゼ1(SOD1)というタンパク質の変異遺伝子とされています。

代表犬種

ウェルシュコーギー、トイ・プードル、パグ、ボーダー・コリー、マルチーズ、ラブラドル・レトリバー 他



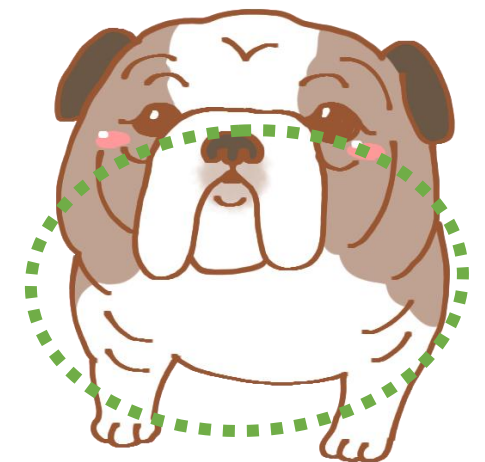
発症年齢

発症年齢は一般的に10歳以上とされています。大型犬は平均9歳、コーギーは平均11歳（8～14歳）で発症し、その後数ヶ月～2年で歩行困難となります。

変異遺伝子保有率※

フレンチブルドックの場合 34.3%
ウェルシュコーギーの場合 52.6%
キャバリアの場合 66.7%

※2016～2020年で検査した株式会社VEQTA のデータより。
変異保有率とはキャリアもしくはアフェクテッドと診断された頭数を検査した全頭で割った時の割合です。



変性性脊髄症(DM)は 常染色体劣性(潜性)遺伝です。

ノーマル(クリア) AA

野生型のみ検出される(変異が検出されない) 場合です。
その遺伝子変異が原因となる疾患の**発症リスクは低い**です。またその遺伝子変異による疾患は後代に遺伝しません。

キャリア(ヘテロ接合) Aa

野生型と変異型の両方が検出される場合です。
その遺伝子変異が原因となる疾患の**発症リスクは低い**です。
ただし、他のキャリア、もしくはアフェクテッドの個体との繁殖は、対象となる疾患の発症リスクが高い子が生まれる可能性があるため、配慮が必要です。

アフェクテッド(変異ホモ接合) aa

変異型のみ検出される場合です。
その遺伝子変異が原因となる疾患の**発症リスクは高い**です。

遺伝子は父親と母親からそれぞれ受け継いだものがペアになっています。右図のように片側に変異を持つ場合はヘテロ接合となり、劣性遺伝の場合はキャリアと表記します。

